

5-4

従来型施設のグループケアへの取り組み

ゆとりと安心のその人らしい生活支援

業務の見直し

個別ケア

特別養護老人ホーム みずほ園

生活相談員 帰山 キヨミ

寮母長 生駒 勇一

東京都西多摩郡瑞穂町箱根ヶ崎922-1

TEL: 042-556-1411

E-mail: mizuhoen@saturn.plala.or.jp

FAX: 042-556-3059

URL: <http://www.mizuhoen.or.jp/>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

昭和56年3月社会福祉法人常盤会開設、同年10月100床で特養開設。平成4年38床（内8床は短期入所生活介護）とデイサービスセンター開始。平成8年50床増床して188床となった。東京都の郊外にある施設で、特養利用者の約7割の方が23区内より入所。平成12年より介護支援事業と訪問介護事業を開始。

＜取り組んだ課題＞

- グループケアへの取り組みの周知徹底
- 個別ケアについての職員への啓蒙
- グループケアに向けて具体的に取り組んだ。

＜具体的な取り組み＞

- 平成13年度「身体拘束廃止」、満足度調査結果より、平成13年11月頃より自然発生的に「ユニットケアを考える」サービスの再構築（仮称リストラ委員会）に取り掛かる。平成15年度より「サービス改善委員会」で平成17年度よりサービス全体を管轄する「サービス委員会」として活動中。
- 入居者の「介護から心身の状況」「医療からの心身の状況」の調査を実施する。
- 全職員への啓蒙への取り組み
 - ・ 課題別「今後の取り組みについて」「認知症棟のサービスについて」等の勉強会の開催。
 - ・ 「入浴」「食事」「排泄」「アクティビティ」「安全」の研究班（自分が参加したい研究班に入る）で各サービスのケア目標を立て、マニュアルを作成した。
- ハード面では食堂テイルームのパブリックスペースを各グループ内に設ける。
 - ・ 寮母室をオープンにして、キッチン等の設備を整えた（2グループ）
 - ・ 倉庫等を改装して食堂等に使用する（3グループ）
 - ・ 浴室の改装及び機械浴槽を増設
 - ・ テーブル等の備品を購入 等
- 業務の改善及びグループの単位と構成の検討
- グループケアの実施について
 - ・ 家族への説明と同意

＜活動の成果と評価＞

- 食事や入浴がグループ内又は近くで行えるようになり、個々のペースで落ち着いた生活ができる。
- 固定した職員で個別ケアに取り組んで、可能な限り生活観ある生活環境を作る努力をしている。
- グループで個別ケアに取り組み、ご家族への情報提供が徐々に来るようになり、信頼関係が築かれつつある。
- 利用者の観察が密になり体調や希望されることへの対応が早くなった。
- 職員の個別ケアの必要性和グループケアへの意識が高まった。

＜今後の課題＞

- グループにより入居者が18名から30名とばらつきがあることから、ケア量やハード的な問題により入居者や職員の配置の見直し。
- 入浴、排泄、食事等のケアに追われ、利用者から目が離れる時間帯がある。
- 記録の時間を取ることが難しい。ケース記録の内容や取り方等の検討が必要。
- 小グループにしても旧来の業務中心のケアから脱せない職員がいることから職員研修の実施。
- 小グループは、職員も利用者も少人数でストレスの原因となる要因が高いので、職員に対してメンタル面での援助体制が必要。
- 職員はグループに専従しているため、他のグループの利用者の様子がわからない。欠勤が出ても応援の勤務が特に夜勤は出来ない。
- 親しみがでて、ケアに張りが出るのは良いがマンネリ傾向の危険があるので、職員を少しずつ定期的に異動することが必要である。